

Ⅲ. 当院での入院治療について

1. 入院の目的と入院中の取り組み～「約束事項」と「覚え書き」
2. 入院生活を送るうえで気をつけておきたいこと
3. 退院時の心構え(オリエンテーション)
4. 病院においてある雑誌・図書と動画

身体記録(入院時または初診時)

1. 病名：① _____	② _____
2. 身体合併症：	
1) _____	
2) _____	
3) _____	
4) _____	
身長	c m
_____	_____
体重	k g
_____	_____

血液検査成績の移り変わり

	検査項目	正常範囲	入院時(/)	1 か月後	退院前(/)
糖尿病	血糖値	70～110			
	HbA1c	4.3～5.8			
肝機能	AST	10～35			
	ALT	5～45			
	γ-GT	10～50			
	総コレ	150～220			
	ALB	3.8～5.3			
	(PLT) 血小板	15～40 万個 / μ L			
貧血	赤血球	M400～552 F 378～499			
	(HGB) ヘモグロビン	M13.2～17.2 F 10.8～14.9			
血圧	収縮期圧 拡張期圧	139mmHg 以下 90mmHg 以下	／	／	／

精神科の診療にかかる^{せんもんりょうほう}専門療法等の^{しよひよう}諸費用の^{がいりやく}概略

- ※ 2010年4月1日より、個別の診療報酬^{ほうしゅう}の算定項目についての明細書を領収書発行の際に添^そえます。
- ※ 保険点数の1点は10円として計算します。
- ※ 所得等に応じて自己負担^{げんどがく}限度額(月額)が設定されています。詳しくは、事務部受付にお問い合わせください。

☆ 重度アルコール依存症入院医療^{かんりかさん}管理加算：

入院治療において、アルコール依存症の治療プログラムに基づく治療が提供されているなど高い治療効果が得られる専門的入院医療について、評価。

(1日につき)	30日以内	200点
	31日以上60日以内	100点

☆ 入院^{つぎ}集団精神療法：(入院の日から起算して6月に限り週2回を限度として、1日に1時間以上実施した場合)1日について、100点。同一日に行う他の精神科専門療法は、別に算定できない。

☆ 通院^{つぎ}集団精神療法：(開始日から6月に限り週2回を限度として算定)1日について、270点。同一日に行う他の精神科専門療法は、別に算定できない。

☆ 精神科作業療法：1日につき220点。

☆ 通院精神療法(初診以外)：
30分以上 400点
30分未満 330点

☆ 精神科訪問看護(I)：575点+450点(他^{しよくしゅ}職種加算)→1,025点

精神科急性期治療病棟について

☆ 精神科急性期治療病棟入院料1：
イ 30日以内の期間 1,984点
ロ 31日以上^の期間 1,655点

Ⅲ. 当院での入院治療について

1. 入院の目的と入院治療中の取り組み～「^{やくそくじこう}約束事項」と「^{おぼが}覚え書き」

依存症は慢性の病気です。アルコール等を使用しているうちに知らないうちに「依存症」という病気にかかり、それは長い経過をたどりながら進行していきます。入院したときには、さまざまな身体・精神・社会的困難をかかえています。病気を治し健康を取り戻すには、つらく長い年月が必要です。でも、決してあきらめることはありません。同じ病気をもつ方々がこの病気の回復に取り組み、健康を取り戻し、家庭や社会でやりがいを得て生活しています。

当院では、アルコール依存症をはじめとするアディクションについての教育と回復のプログラムを提供し、酒等のない新しい生き方ができるよう援助することを目指しています。

入院治療の目的は、次の二つの段階に分けられます。入院という環境に身を置くことによって、まず、アルコール等の依存対象から距離を置きます。

第一の段階は、アルコール等の^{げどく}解毒と身体合併症の治療です。^{りだつ}離脱症状を軽減し、食事がおいしく食べられるようになり、足腰がしっかりとしていきます。

そして、

第二の段階は、イライラや抑うつ気分、不安などの離脱症状の苦しさでアルコール等を使用したいという欲望に耐えながら、治療プログラムにある各種ミーティングや自助グループに参加します。

依存対象を絶った状態で、これまでの自分がどのような状態であったかを冷静に振り返る必要があります。例えば“アル中”という言葉は知っていても、“アルコール依存症という病気”については、はじめて耳にする方もあるでしょう。「アル中は意志の弱い人になる」などという^{へんけん}偏見にいつまでも^{まど}惑わされることなく、これらの病気についての正確な知識を得てください。また入院中に断酒・断薬等の方法を手に入れ、これを退院後も^{いじ}維持できるようにトレーニングします。

【入院期間】

入院期間は、断酒・断薬等の教育をおこなうリハビリ期間をおよそ2か月間設けています。身体や精神の合併症が重度である場合は、それに応じて入院期間が長くなる場合があります。また、初回の入院ではなく、入院治療が二度目以降の場合は、^{げどく}解毒入院だけにするか断酒・断薬等の教育をやり直すかなど、入院時に主治医とよく相談していただきます。



アルコール依存症者への入院治療指針

渡辺病院（2000年4月～、2010年4月改定）

入院治療の目的は、二つの段階に分けられます。第1の段階は、アルコールの解毒と身体合併症の治療です。第2の段階としては、離脱症状の苦しさ^{げどく}とアルコールを飲みたいという欲望に耐えながら、治療プログラムにある各種ミーティングや自助グループに参加し、“しらふで生きる”ためのリハビリテーションを行うことです。リハビリテーションは、退院してからも、通院や断酒会などの自助グループに参加することで継続される必要があります。

1. 入院時の約束事項

- ① 断酒を目的とした入院であり、これを入院中の仕事として取り組みます。
- ② 入院後の一定期間（2週間～4週間）は外出と外泊を制限します。また、主治医の指示がある場合には、病院から出る前に抗酒剤を服用して外出します。
- ③ アルコール離脱症状^{りだつ}や精神症状^{こんらん}のために混乱^{はげ}が激しい場合は、症状が軽減^{けいげん}するまでの期間、閉鎖病棟あるいは個室で過ごすことが基本となります。

2. アルコール・アディクション治療プログラム（A R P）への参加

- ① 入院患者およびデイケアに通所している依存症患者は、主治医の指示にもとづき、A R Pに参加するよう努力していただきます。
- ② 身体や精神の合併症が重い場合は、主治医がミーティングに参加できる状態か判断し、集団精神療法処方箋に指示が出るまでは、参加することをひかえていただきます。
- ③ スタッフは、特別な事情がない限り、自助グループおよび月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の該当する各ミーティングへ参加するように声かけをします。

3. 飲酒時の対応

- ① 入院中に病棟に酒を持ち込むことや飲酒行為があった場合は、主治医あるいは当直医に連絡します。本人が飲酒したことを否定しても、酒臭^{しゅしゅう}があるか酒を所持していることが判明したときは、入院治療の意欲があるかどうかを話し合います。本人に治療意欲がない場合は、家族に説明して退院の手続きをとります。
- ② 発見時に酒の酔いがひどく、判断能力が乏しい場合は閉鎖病棟に移るか個室を使用し、酔いが覚めた時点で入院治療の意志を確認します。

4. 退院後のケア

断酒の三本柱は、自助グループへの参加、専門医療機関への通院、抗酒剤の服用といわれています。退院後にどう「今日一日」酒を飲まずに過ごすかが、毎日の課題です。独力で酒を断つことができなかつたことを思い起こし、仲間の力を借りていく勇気が大切です。



アルコール依存症で入院したときの覚え書き

このたび、渡辺病院にアルコール依存症の治療を目的として入院しました。このことを踏まえ、以下のことを入院中に守るよう主治医から説明を受け、同意しました。

- 入院後の一定期間（_____週間）は外泊および外出の制限を受けることに同意します。
- 主治医の指示があった場合には、病院の外に出るとき抗酒剤（シアマイドまたはノックビン）^{こうしゅざい}を忘れずに服用します。
- 合併症の治療が一段落して、主治医からアルコール・アディクション治療プログラム（ARP）への参加指示があれば、ミーティングや自助グループに参加するよう努力します。
- 入院中に病棟に酒を持ち込むことや飲酒行為があった場合、主治医または当直医と話し合いを行ないます。酒の酔いが残っているときは閉鎖病棟へ移るか個室を使用し、退院が決まった場合はこれに従います。
- イライラした気持ちがあっても話し合いを第一とし、病院スタッフや他の入院している人を暴言や暴力で脅す^{おど}ことはしません。もし、暴力行為^{ぼうりょく}があった場合、入院生活を続けることが困難だと主治医から伝えられたなら、これに従います。

____年 ____月 ____日

____氏名

2. 入院生活を送る上で気をつけておきたいこと

(入院生活心得)

- | | |
|-------------------------|--|
| ① 治療上必要なもの | 運動靴・傘・帽子など（ぶらり会、自助グループへの参加時）。『回復に向けて ARP テキスト「学習&交流ミーティング」必携』の購入。 |
| ② 外出・外泊について | 入院後 1～2 週間は離脱期の管理と安静を守るため、病棟内で過ごすようにしていただいています。外出等には、主治医の許可が必要です。また、ARP への参加が優先です。 |
| ③ 携帯電話について | 使用には主治医の許可が必要です。許可のあった後は病棟ルールを守って使用してください。（入院後 1 週間は安静期間ですので、特別な事情がない限り携帯電話はナースステーションでお預かりします。） |
| ④ テレビ・ビデオ・パソコン・ラジカセについて | 入院当初は外からの刺激を避けるようにし、何のために入院しているのかを考える時間としてください。 |
| ⑤ 車・バイクについて | 入院中の運転や持込みは原則禁止です。主治医の許可がある場合でも必要最小限にとどめてください。また、他患者等の同乗はできません。 |
| ⑥ 喫煙について | 喫煙所だけとし、発癌等の危険性が高まるため健康面を考えると、禁煙が望まれます。受動喫煙に注意を。 |
| ⑦ 小遣いについて | 自己管理の方は、必要以上のお金・貴重品を持たず、ほかの人とお金の貸し借りをしないでください。小さいお金（小銭）も持ち歩かない方が安全です。病院委託された場合は、担当看護師に相談しお預かり金額・出し入れの方法等を決めてください。 |
| ⑧ 飲食物について | アルコールを含む食品・飲料は、病棟への持ち込み禁止です。成分表示にも留意を。例）栄養ドリンク・漬物の一部・酒まんじゅう・洋酒の入った菓子等
また、糖尿病や高脂血症などのため特別に治療が必要な方は、栄養士の指導のもとで間食を制限します。 |



急性期治療/ 東 病棟ご案内

<p>1. 病棟の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定床 55 床の急性期治療病棟です。チーム医療による積極的な治療を行ない、早期の退院を目指しています。 ・原則として任意入院の場合は病棟外へ自由に入出入りすることができますが、病棟を管理運営する上で、病棟の 3 階/B ユニットのドアは施錠させていただいています。
<p>2. 病棟の設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースステーション、診察室、処置室、面談室、浴室、洗濯・乾燥機、共用冷蔵庫など
<p>3. 病棟の日課</p>	<p>【点灯】6:00 【消灯】21:00 (第1デイルームの消灯 22:00) 【食事時間】 朝食は 7:45～ 昼食は 11:45～ 夕食は 18:00～ 【服薬時間】 主治医の指示した時間にそって行ないます。 【入 浴】 女性は(月、水、金) 13:30～16:30 要介助の方は 9:45～11:00 男性は(火、木、土) 14:00～16:30 【面 会】 できる限り 8:15～19:00 をお願いしています。 【喫 煙】 病棟の外にある喫煙室だけ使用ができます。</p>
<p>4. 治療 ①診察 ②医療相談 ③リハビリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医の診察は、それぞれに曜日と時間を定めて行います。 ・医療相談は、精神保健福祉士 (PSW) が随時お受けいたします。 ・リハビリテーション(作業療法・クラブ活動)、集団精神療法(ミーティング)などは、主治医・担当看護師などがご案内します。
<p>5. 外出、外泊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院外への外出時間は、8:15～17:00としています。 ・2時間以上の外出および外泊をご希望の場合は、『外出・外泊申請書』に所定の事柄をご記入して提出してください。 ・入院後の一定期間は、主治医の指示により、病棟や病院からの外出を制限することがあります。
<p>6. 現金・貴重品の所持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多額の現金や貴重品はできるかぎり所持しないでください。(貴重品の管理のため、ロッカーのカギをお貸出ししています) ・事務の医事課/患者会計係で現金をお預かりし、「お小遣い」の形で毎週1～2回、一定の金額をお渡することができます(委託管理費が1日30円必要)。
<p>7. 通信・電話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟内に公衆電話が設置してあります。電話は、緊急の場合を除いて、6:00～21:00に使用してください。
<p>8. 刃物等の取り扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刃物類(カミソリ、はさみ、カッターナイフ)やライターはできるだけお持ちにならないでください。詰所でお預かりすることがあります。
<p>9. その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さまの病状等により、病室をかわっていただくことがあります。 ・病棟内での携帯電話は、決められた時間と場所でご使用ください。 ・アルコール類の入った飲み物、食べ物の持込みや飲酒は厳禁です。

Ⅲ. 当院での入院治療について

3. 退院時の心構え(オリエンテーション)

退院おめでとうございます。



1) 1日でも長く断酒を継続するために

- ・ 「今日一日」、酒を飲まないことの積み重ねです。目標は小刻みに。失敗は糧にし、小さな成功を積み重ねていくことです。
- ・ 入院中に学んだことを土台にし、自分にあったやり方を工夫していきましょう。
- ・ 「酒に対し無力である」ことを思い返し、初心を忘れずに。
- ・ 抗酒剤を服用している人は、朝起きたときすぐに飲みましょう。(抗酒剤の服用)
- ・ 抗酒剤の服用を止められている人は、毎朝、「今日一日」の断酒を誓いましょう。
- ・ 参加する自助グループを決めて、出かけましょう。(自助グループへの参加)
- ・ 定期的に通院しましょう。(専門医療機関への通院)
- ・ まわりの人に酒をやめたことを宣言しましょう。(断酒宣言)
- ・ 危ない場所へは近寄らないようにしましょう。(飲酒の引き金を引かない)
- ・ 精神的に動揺する場所(飲酒の引き金)には近寄らないようにしましょう。
- ・ 社会生活での厳しい現実を受け止め、苦しいときは信頼できる人に相談しながら、「断酒を第一に」考えた生活設計を立てましょう。

2) 抗酒剤(シアナマイド・ノックビン)と断酒補助剤(レグテクト)について

- ・ 抗酒剤・断酒補助剤はこころに鍵をかける手段として、「今日一日、酒を飲まない」という気持ちをこめて服用しましょう。
- ・ 断酒開始後の半年から1年は、再飲酒が非常に多いため抗酒剤等を服用しましょう。
- ・ 薬は毎日欠かさずことなく服用することが大切です。一日でも服用しないと不思議と「飲めるぞ」という欲求が強まり、再飲酒につながります。
- ・ できれば家族や関係者の前で抗酒剤を飲むようにしてください。飲み忘れを防ぐことができ、ご家族も安心します。

3) 自助グループへの参加について

- ・ 断酒会・AAは酒をやめたいと思っている人が、お互いに助け合って断酒を続けていくための会です。ご家族の協力のもとで参加されることをお勧めします。
- ・ お金と時間をかけて、意地でも何でもいいから参加し続けましょう。半年、1年と通い続けることで、例会やミーティングの意味がわかってきます。

4) 生活上で注意すること、工夫すること

- ・ 抗酒剤を服用していると、わずかなアルコールにも顔が赤くなりドキドキするなど反応することがあります。料理にはアルコールを使用しない方が安全です。
- ・ 購入した飲み物、食べ物はラベルの成分表示を見て、アルコールが入っていないことを確かめましょう。
- ・ のどが渴いたらお茶やジュースなど手近な物でのどを潤うるおしましょう。
- ・ 規則正しい生活を送り、食事や睡眠は十分にとって、疲れを翌日に残さないようにしましょう。



HALT(ホールド)に気をつけよう!

(さいはつ・再発:さみしい、いらいら、はら減った、つかれた)

【空腹 Hungry】腹が減っていると、飲酒欲求が出てきます。空腹を感じたら何か食べ物を口に入れるようにしましょう(糖尿病の方は、ヘモグロビンA1cに注意し血糖のコントロールを保った上で、二重苦にじゅうくで、最初は苦勞くろうが大きいです)。

【怒り Angry】敵意、恨み、怒りは飲酒して酔うことと深く結びついています(「酔うと文句が言える」「しらふでは気分はっさんが発散できない」などと、酔い特有の万能感ぼんのうかんを求めやすい)。

【孤独 Lonely】そばに人がいるいないにかかわらず、心細く感じたときは要注意。誰もそばにいないときは、飲みたい欲求が高まります(酒を飲むことは不信感や孤独感を増強するため、さらに酒おぼに溺れさせます)。

【疲労 Tired】たいていは動き過ぎ、働き過ぎが疲れのもと。イライラに要注意(断酒を始めて1年くらいは断酒の取組み自体がかなりのエネルギーを使います)。

【有頂天】うれしいときや喜びも飲酒の引き金となります(お祝いうちょうてんのとき、とても気分の良いときも要注意)。



- ☆ 酒席に出たとき
- ☆ 手元にお金があるとき
- ☆ 飲み友だちと会ったとき、「一杯なら飲んでもいいのでは」と誘われた
- ☆ もう病気が治ったという油断ゆだん
- ☆ 自助グループや病院から離れる、足が遠のく
- ☆ 仕事が忙しい
- ☆ 近所のつき合いが忙しい

5) もしも飲酒してしまったら

- ・ できるだけ早く酒を切って、かかりつけの医院や病院に受診しましょう。
- ・ 断酒している仲間に連絡し、相談しましょう。
- ・ 病院のミーティングや自助グループで飲酒したことを隠かくさずに話してみましょう。

4. 病院においてある雑誌・図書と動画



<アルコール健康障害・アディクションに関する図書>

〔 3階 西3病棟Cユニット入り口の面接室にあります。お貸し出しできます。 〕
 ◎ 基本図書 □ 推薦図書 ● 主として治療支援関係者向け図書

【 啓発・介入・治療と回復 】

- ・季刊雑誌 アルコールシンドローム No.6, No.26~46 Be! No.47~88
- ・アルコールシンドローム 増刊号 No.2, No.3 / Be! 増刊号
- No.6 家族…という名の19の「物語」 □No.7 きょうだい・一人っ子
- No.8 夫婦って何? □No.9 親の自立/子の自立
- No.11 アディクションの根っこ □No.12 世代連鎖 親から子へ、何が伝わるのか?
- No.13 回復の力 勇気をくれる21人の物語 □No.14 男の気持ち/オンナの事情
- No.15 終わらない「家族」という関係 □No.16 依存症って何?
- No.17 親密さの罨 □No.18 ACの生きる力! [回復と成長のプロセス]
- No.19 回復のルール 20人がつかんだ[知恵と工夫]
- No.20 依存症者と家族/ACのための 人生ガイドブック
- No.21 「死にたい」-「生きたい」の間に何があった?
- ・誌上アル中教室 -アルコール依存症 回復のための講義録 森岡 洋著
- ◎アルコール依存症を知る! 回復のためのテキスト 森岡 洋著
- ◎回復ノート① 「酒のない人生」をはじめの方法
- ◎回復ノート③ 家族が幸せを取り戻す とって置きの方法
- ・アディクション 回復の場所はどこにあるのか?
- ・アディクション こんなことで悩んでいませんか?
- ◎夫婦で読むテキスト あなたが変わる 家族が変わる 猪野亜朗著
- アルコール性臓器障害と依存症の治療マニュアル
- 急増する飲酒問題への正しい対処法- 猪野亜朗著 星和書店
- お酒って何だろう 今成知美著 岩崎書店
- ・アルコール依存症 回復へのアプローチ 長谷川行雄著 万葉社
- ・アルコールで起こる病気 高木 敏著 CIAP 出版
- アルコール依存症治療読本 中村希明著 星和書店
- ・明日こそ止めるさ パーノン E ジョンソン著 滝口直子訳 琉球ガイア出版
- ・インナーチャイルド ジョン・ブラッドショー著 新里里春訳 NHK 出版
- ・虐待サバイバーとアディクション ケイティー・エバンス著 斎藤 学訳 金剛出版
- ・バッドマザーの神話 J・スウィガード著 斎藤 学訳 誠信書房
- 魂の家族を求めて 斎藤 学著 日本評論社
- 嗜癖する社会 A・W シェフ著 斎藤 学訳 誠信書房
- ・お父さんお酒やめて-アルコール依存症克服の軌跡-榎本 稔・安田美弥子著 太陽出版
- ・断酒学 村田忠良著 星和書店
- ・何がまちがっていたの -「愛」で支配するひと・イネイブラー アンジェリン・ミラー著 IFF 出版部

以上、アルコール薬物
 問題全国市民協会編
 NPO 法人ASK 発行

【 自助グループ関連 】

- ◎断酒必携 指針と規範 全日本断酒連盟
 - ・断酒会・入院中の仲間へ 高知県断酒新生会
- 松村春繁 小林哲夫著 NPO 法人 ASK
- ◎アルコールリクス・アノニマス
 - ・無名のアルコール中毒者たちーアルコール中毒からの回復ー
- どうやって飲まないでいるかーしらふの生き方ー
- 12のステップと12の伝統
- 今日を新たに
 - ・酒のない新しい生き方ーこんな世界があるなんてー
 - ・回復への道ーそれぞれの場合ー Part 1
 - ・信じるようになった
 - ・アルコールリクス・アノニマス 回復の物語 Vol. 4
- ビッグブックのスポンサーシップ 依存症からの回復研究会
 - ・アラノンで今日ー日 アラノンジャパン
 - ・こころをはぐくむアルコール依存症と自助グループのちから 今道裕之著 東峰書店

以上、AA 日本ゼネラル
サービスオフィス

【 本人・家族の体験談、薬物依存、その他 】

- ・にがい宴 ■女性の薬物依存症 榎本 稔・安田美弥子著 太陽出版
- ・アダルトチャイルドが人生を変えていく本
- ・アダルトチャイルドが自分と向き合う本 NPO 法人
ASK
- ・アルコール依存症 家族読本 猪野亜朗著
- ・家族収容所 信田さよ子著 講談社
- ・久里浜 アルコール病棟より 河野裕明著 東峰書店
- ・アル中地獄 那山照彦著 第三書館
- リカバリー アダルトチルドレンガイド H.L.グラヴィッツ、J.D.ボーデン著 大越 崇訳 星和書店
- ・リカバリー 大越 崇著 星和書店
- ・家族のなかの女・男・子ども 斎藤 学著
- 心の内の子どもと出会う 斎藤 学著 ヘルスワーク協会
- ・私のアルコール依存症の記 西郊文夫著 東峰書房
- ・子どもの飲酒が危ないーアルコール・ドラッグに蝕まれる若者達ー 鈴木健二著 東峰書店
- ・失踪日記 吾妻ひでお著 イースト・プレス
- ・失踪日記2 アル中病棟 吾妻ひでお著 イースト・プレス
- 世の中への扉 ほんとうの「ドラッグ」 近藤恒夫著 講談社
- ドラッグ(薬物)って何だろう 水澤都加佐著 岩崎書店
- ・麻薬と覚せい剤 田所作太郎著 星和書店
- ・われら回復の途上にて 市毛勝三著 茨城ダルクを支援する会
- 世の中への扉 ほんとうの「ドラッグ」 近藤恒夫著 講談社
- アルコール依存症の早期発見とケアの仕方 世良守行著 日東書院
- 虐待サバイバーとアディクション K.エバンズ、J.M.サリバン著 斎藤 学監訳 金剛出版



<VHS ビデオ・DVD リスト>



[◎ 基本動画 □ 推薦動画 ● 主として治療支援関係者向け動画]

<VHS ビデオ>

- シリーズ アルコール依存症 (全5巻)

第1巻「アルコール依存症とは」(27分) 第2巻「アルコール依存症者の心理」
第3巻「家族の心理」第4巻「アルコール依存症からの回復」(25分)
第5巻「酒なし生活術」(20分)

- もう一つの人生 (長編記録映画 前編-45分、後編-55分)

ストーリー: アルコール依存症とその家族たちの自助グループの会が始まる。静かな時間が流れる中、四組のエピソードを映し出す。

- 酒とバラの日々 (映画 117分) 出演: ジャック・レモン、リー・レミック他

ストーリー: 1962年制作。サンフランシスコにある宣伝会社の渉外係ジョー・クレイは得意先のパーティーで、大会社の秘書カーステン・アーセンをセミプロの女と間違えて怒らせてしまった。翌日ジョーは…。徐々にアルコールに溺れてゆくカップルを描く。

- 癒しの家 依存症と向き合う女たち カナダ (47分)

ストーリー: アルコールやドラッグへの依存症に苦しみ、オーロラ・ハウスというシェルターに集まった女性たち。お互いに支えあい、癒し合える状況の中で、自分たちの現実、いろいろな問題や感情に向かっていきます。

- 溺れる人: テレビドラマ・スペシャル (114分) 出演: 篠原涼子 他

ストーリー: アルコール依存症をテーマに、原作者の実体験をもとにしたドキュメンタリードラマ。結婚後1児をもうけるが、結婚生活のなかで病状はさらに悪化。深刻な事態から抜け出すために家族とともに依存症と戦っていく姿を描く。

- 男が女を愛するとき (映画 120分) 出演: アンディ・ガルシア、メグ・ライアン

ストーリー: パイロットのマイケルとキャリア・ウーマンのアリスは、お互いに一目惚れで恋に落ち、結婚する。しかしマイケルは仕事柄、不在がち。彼女は寂しさから…。全米で深刻な社会問題となっているアルコール依存症の増加を背景に、妻の「アルコール中毒」という障害を乗り越えて、本物の愛を勝ち取ろうとする夫婦の姿を描いた。

<DVD>

- <平成28年10月22日> TBS報道特集 (30分)

岡山 DARC で実際の薬物依存症から回復を目指している入寮者の姿や、日本 DARC での田代まさし氏の体験談など、TV 放映された内容を収録。

- アルコール依存症者に対する家族の効果的な対応の仕方 (CRAFT 50分)

藍里病院 吉田精次

問題飲酒者に対する家族の効果的な対応の仕方について説明。まずは総論で、問題のとらえ方、考え方などを解説します。その後技術編で実際の場面でどう使うのか参考にしてください。

- あいサポート まず、知ることからはじめましょう 障がいのこと (40分)

アルコール依存症のみならず、様々な障がいについて学んでみましょう。

- ・ <平成 29 年 6 月 11 日> 大阪市断酒連合会創立 50 周年記念大会 (57 分)
記念講演「大阪市の酒害対策を振り返って」 医療法人和気会病院理事長 和気隆三 先生
全国的にも著名な和気医師。ご本人が歩んできた依存症治療の変遷を大阪での貴重な治療体験をもとに収録。

□知ってるつもり？あなたの知らないアルコールの世界 (36 分)

(鳥取県作成 アルコール健康障害啓発動画)

生活に豊かさや潤いを与えてくれると言われている、お酒。しかし、飲み方に気をつけないと、心や身体に、悪い影響を与えてしまいます。それは、アルコール健康障害と呼ばれ、男女、年齢に関係なく、誰にでも起こりうるものです。

◎依存症からの回復

第 1 巻 “依存症” とは何か (59 分) 第 2 巻 家族を支える (67 分)

第 3 巻 回復への道 (63 分)

依存症とはいったいどんな病気なのでしょうか。そして人はなぜ依存症になるのでしょうか。実際に依存症で苦しんだ人の経験を VTR で紹介しながら、依存症の正しい理解について解説します。

- 酔いがさめたらうちに帰ろう。(映画 118 分) 出演:浅野忠信 永作博美
ストーリー:戦場カメラマンとして世界中を駆け回ってきた塚原安行は、人気漫画家の園田由紀と結婚し子どもにも恵まれるが、彼のアルコール依存症が原因で離婚。やがてアルコール病棟へ入院した安行は、そこで出会った人々との触れ合いに不思議な安堵感を覚える。家族の深い愛情に支えられ、安行は穏やかな日々を取り戻すが…。

- 毎日かあさん (映画 114 分) 出演:小泉今日子 永瀬正敏

ストーリー:二人の子育てに仕事にと忙しい日々を、持ち前のたくましさで乗り切る漫画家のサイバラ。元戦場カメラマンの夫は戦場でのトラウマのせいでアルコールにおぼれ、二人は離婚することになる。大切な家族を失い、アルコール依存症と闘う夫だったが、今度はガンが見つかり…。

- フライト (映画 138 分) 出演:デンゼル・ワシントン

ストーリー:ウィップ・ホワイトカー機長が搭乗した旅客機が飛行中、急降下するトラブルに見舞われる。だが彼の奇跡的な操縦で無事、着陸に成功。その行動から彼は英雄として扱われる。その一方で、事故原因は何だったのかという疑問が持ち上がるのだった…。

- NHK ふるさと発 もう“クスリ”には頼らない～薬物依存 親子の戦い～ (30 分)

鳥取ダルクにカメラを入れ、「鳥取ダルク 5 周年フォーラム」ならびに現在の中国地方での薬物依存の実態を取材。

- カノン (映画 123 分) 出演:比嘉愛未、ミムラ、佐々木 希

ストーリー:東京で生活している専業主婦の長女・宮沢紫、富山県黒部市に暮らす小学校教師の次女・岸本藍、金沢の老舗料亭でおかみとして働く三女・岸本茜。祖母の葬儀で久々に顔を合わせた 3 姉妹は、遺書に死んだと聞かされていた母・美津子が生きていと記されていて驚く。父の死を機に酒に溺れ、火事で重傷を負い、自分たちから離れていった美津子の軌跡を知った三人は、彼女のいる富山の介護施設へと向かう。だが、彼女はアルコール性認知症が原因で娘たちのことを認識できず…。

(主な図書・ビデオ・DVD の一覧 2018 年 1 月現在)

※他にもフォーラムの資料集・リーフレット、鳥取県断酒会結成 50 周年記念誌等あります。

アルコール関連本棚 (西3病棟Cユニット入口の面接室、入ってすぐ右手の本棚です)

	主な動画・図書一覧	発行年	著者又は出版社
1段	動画(VHSビデオ、DVD)		
2段	アルコールシンドローム、Be! No.26~46/Be! 増刊号No.6~21、DVD		
3段	12のステップと12の伝統	2000	AAゼネラルサービスオフィス
	どうやって飲まないでいるか	1997	AAゼネラルサービスオフィス
	回復への道	2001	AAゼネラルサービスオフィス
	アルコールリックアノニマス	1983	AAゼネラルサービスオフィス
	ビッグブックのスポンサーシップ	2007	ジョー・マーキュリー
	アラノンで今日一日	2008	アラノンジャパン
	あなたが変わる 家族が変わる	2005	NPO法人 ASK
	アダルトチャイルドが人生を変えていく本	1997	NPO法人 ASK
	アダルトチャイルドが自分と向き合う本	1997	NPO法人 ASK
	嗜癖する社会	1996	NPO法人 ASK
	家族が幸せを取り戻すとおきの方法	2000	NPO法人 ASK
	アディクション 回復の場所はどこにあるのか?	1995	NPO法人 ASK
	アディクション こんなことで悩んでいませんか?	2002	NPO法人 ASK
	アルコール依存症を知る! 回復のためのテキスト	2009	森岡 洋/NPO法人 ASK
	断酒学	1991	村田忠良
	断酒会・入院中の仲間へ	S60	高知断酒新生会 編
	断酒必携 指針と規範	1993	全日本断酒連盟
	松村春繁	1990	小林哲夫
	魂の家族を求めて	1995	斎藤 学
	家族の中の女・男・子ども	1998	斎藤 学
	心の内の子と出会う	1998	斎藤 学
	アルコールで起こる病気	1992	高木 敏
	にがい宴 女性のアルコール依存症	1992	榎本 稔・安田美弥子
	お父さんお酒やめて	1990	榎本 稔・安田美弥子
	リカバリー -アダルトチルドレンガイド	1994	H・Lグラヴィッツ、J・Dホーデン
	お酒ってなんだろう	1992	今成知美
	信じるようになった	1996	AAゼネラルサービスオフィス
	インナーチャイルド	1995	ジョンブラッドショー
	虐待サバイバーとアディクション	2007	ケイティ・エバンズ
	アルコール依存症 回復へのアプローチ	2003	長谷川行雄・世良守行
バッド・マザーの神話	1995	J・スウィガート	
失踪日記	2003	吾妻ひでお	
失踪日記2 アル中病棟	2003	吾妻ひでお	
4段	アルコール依存症の早期発見とケアの仕方	2010	世良守行
	誌上アル中教室	1992	森岡 洋
	家族に贈る回復の法則25	1994	森岡 洋
	アルコールリズムの社会学	1996	野口裕二
	アダルトチルドレン 実践編	2001	信田さよ子
	家族収容所	2003	信田さよ子
	中庭の少女	1998	木村千穂
	明日こそ止めるさ	2010	バーン・E・ジョンソン
	こころをはぐくむ	2005	今道裕之
	アルコール依存症治療読本	1982	中村希明
	久里浜「アルコール病棟」より 臨床医30年の知恵	1994	河野裕明
	私のアルコール依存症の記	1992	西郊文夫
	アルコール性臓器障害と依存症の治療マニュアル	1996	猪野亜朗
	家族読本	2010	猪野亜朗
	われら回復の途上にて	2002	市毛勝三
	酒の人間学	1979	小野 肇
	何がまちがっていたの -「愛」で支配するひと・イネイブラー	1999	アンジエリン・ミラー
	子どもの飲酒があぶない	1995	鈴木健二
	アル中地獄	1994	邦山照彦
	人はなぜ酒を飲むのか	1994	中村希明・朝日文庫
世の中への扉「ほんとうのドラッグ」	2010	近藤恒夫・講談社	
ドラッグ(薬物)ってなんだろう	1992	水澤都加佐	
麻薬と覚せい剤	1998	田所作太郎	